

令和 2 年 3 月 18 日

松本市議会

議 長 村 上 幸 雄 様

松本市議会

土 屋 眞 一

会派「開明」行政視察報告書

標記行政視察に参加しましたので、その概要について報告します。

記

1 期日、場所

令和 2 年 1 月 31 日（金） 13 時から 15 時

神奈川県大和市大和南 1-8-1

大和市文化創造拠点シリウス

2 松本市の課題

松本市においては時代の変化に対応し、市民のニーズに合う新たな図書館の在り方を考え、早急に実施して行かなければならない時期となっている。

図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内子供ひろばの 4 施設が融合する文化創造拠点として、また従来型の図書館のコンセプトやイメージとは異なる新たな図書館について「成功例」とされている大和市の「シリウス」について調査、研究をしたものです。

3 視察先の概要

（1）複合施設の規模

床面積合計 22,904 m²

大和市生涯学習センター 2,953 m²

大和市立図書館 6,560 m²

やまと芸術文化ホール 8,269 m²

大和市屋内こども広場 911 m²

大和連絡所他 4,211 m²

整備時期/平成 28 年

構造/地上 6 階 地下 1 階 鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

(2) 総工費

147 億円

内訳	交付金	33 億円
	防衛省	7 億円
	中央から	80 億円
	一般財源	16 億円
	基金	11 億円

(3) 維持管理費

10 億円/年

内訳	管理料	8 億円
	水道光熱費	1 億円
	再開発費・修繕費	1 億円

(4) 人員

250 名 (内図書館人員 50 名)

(5) 入場者

1 日平均	8,000 人
土日平均	12,000 人

(6) 運営主体

指定管理者やまと未来

株式会社図書館流通センター、サントリーパブリシティサービス株式会社、株式会社小学館集英社プロダクション、株式会社明日香、株式会社ボーンランド、横浜ビルシステム株式会社

管理・運営には民間企業を活用すべく、指定管理者制度を活用している。

学習センター、図書館、芸術文化ホール、屋内子供広場という 4 つの機能が融合した施設であるので、それぞれの専門分野にノウハウがある 6 社の共同企業体で運営されている。

(7) 図書館利用時間及び休館日

利用時間	3 階	9:00~19:00
	4 階・5 階	9:00~21:00
	日祝	9:00~20:00
休館日	年始年末 (12 月 31 日、1 月 1 日)	

4 所感

現在松本市の図書館は、中央図書館と 10 の分館という構成になっている。少し古いデータ (2012) ですが、利用状況を見ると分館は蔵書冊数では 48 パーセント、貸出冊数では 66 パーセントです。分

館が全貸出数の約三分の二を占めている。本市の図書館の特徴として他市に比べ分館の数が多いという事ばかりではなく、分館が地域にとって最前線であり身近な存在であると考え。本市の公共施設の維持管理のマネジメントにおいては将来的に図書館施設も例外とはならず、見直しを進めて行かなければならないと考える。それぞれの地域においては、行政の縦割りの施設ではなく「シリウス」の超小型版ともいえる複合施設がこれからの少子高齢化に対応した、コストパフォーマンスと時代のニーズにあった複合施設の在り方ではないかと考える。

今回視察した「シリウス」は周辺の人口や密度などの周辺環境が違っているので箱物自体の費用対効果は測りかねるが、コンセプトは導入できるものが多いと考える。

具体的には最寄り駅からの立地（大和駅から徒歩 3 分）、コミュニティ FM 放送スタジオ（災害時には災害関連情報を優先的に放送する）、コンビニエンスストア（ローソンが隣接）、スターバックスコーヒー（エントランスにある）大和市役所連絡所（戸籍、住民票、市税納付、母子健康手帳交付等）、観光協会（市内イベントや情報発信）など従来の縦割り行政施設にはないものがたくさん入っている。

本市の課題となっている中央図書館は、開館から 28 年以上が経過し、老朽化が進んでいる。この再整備の検討が始まっているが、まだ具体的な目途は立っていない。この拠点施設をどう整備するか、また役割についても議論が必要であると考え。

本市の図書館は従来型の施設とコンセプトであり、資料収集、貸出冊数、レファレンス（調査相談）、児童の読み聞かせ等が本市図書館の基本的な機能であり、当然充実させることが重点事項であり目標である。

たしかにこの基本姿勢は重要であると考え、インターネットや書籍のデジタル化、AI が進めば旧来型の図書館は、淘汰されるのではないかと思う。

この視察で考えさせられた事は、生き残る図書館とは時代に合わせて進化する図書館であるということ。貸出冊数より利用者数であり、若者や高齢者の居場所づくりであり、にぎわいである。

中央図書館についても手狭で立地条件の悪い今の場所にお金をかけるのか、松本駅周辺に分館を確保した方が良いのか、この視察を通じて先送りせず早急に結論を出していかなければならないと感じた。

図書館は、人を未来に繋げる場所である。